

## 生活部会

### 【 テーマ 】

障がいのある方が、この地域で暮らすために必要な障がい福祉サービスについて考える

部会長	ともいきライフ月影
副部会長	地域生活支援センターCoCoちくま
	稲荷山太陽の園
	千曲市福祉課
	坂城町福祉健康課
事務局	千曲・坂城基幹相談支援センター

### 1. 年間目標

多くの事業所の職員が部会に参加し、現場の課題について情報共有するとともに、この地域の生活の場の体制づくりについて検討する。

### 2. 活動状況

日時	会場	人数	主な内容
4月30日	ふれあい福祉センター	19	<ul style="list-style-type: none"><li>・ R5年度活動報告R6年度活動計画、年間スケジュールを共有した。</li><li>・ R6年度は「行動障害と権利擁護について」をテーマに全体研修および「行動障がい」に係る実践研修を、社会福祉法人高水福祉会 野口直樹氏を講師に招き実施することを周知した。</li><li>・ それぞれの事業所において、行動面で支援に課題を感じているケースやR6年度の研修で学んでいきたいことについて、4グループに分かれグループワークを実施した。</li></ul>
7月24日	ふれあい福祉センター	34	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修会『自閉症と行動障害』①の開催（講師：野口直樹氏） 以下、講演内容抜粋。 強度行動障害は自閉症の方が陥りやすい二次障害であり、自閉症について理解が無いとしばしば躰や教育、療育、支援方法等によって強度行動障害（二次障害）が生じてしまう。福祉分野における基本的考え方であるICFという標準モデルに則る支援が原則となる。支援を行う際には自閉症の障害特性の理解が必要なため、事業所や支援者達は主観的な支援を排して客観的なアセスメントを基に支援を組み立てなければならない。支援の組み立ては①ICFモデルによる環境へのアプローチ、②氷山モデルによる本人の学習スタイルへのアプローチ、③ABC分析による行動の機能(要求・回避・注目・感覚刺激)へのアプローチ を行っていく。支援のゴールは『障害者が社会、地域の中で役割を持ち参加すること』であることを忘れずに支援の計画を立てていく必要がある。</li></ul>

## 2024年度（令和6年度）活動報告

9月18日	ふれあい福祉センター	31	・研修会『自閉症と行動障害』②の開催（講師：野口直樹氏） 7月24日の研修内容を踏まえて野口氏のファシリテートによるグループワークを行った。参加者は事前に配布された架空事例を読み込んだうえでICF・冰山モデル・ABC分析のフレームに沿って考えグループで意見を出し合った。また、一連の講義の応用編として参加者から実際に事業所で支援に困難を感じている事例を発表していただき、それについてグループワークと全体発表が行われた。
12月11日	ふれあい福祉センター	13	・7月、9月に開催された研修会『自閉症と行動障害』①②の研修内容についてグループで振り返りを行い、成果や課題などについて話し合った。 ・R5年度作成した魅力発信動画は事務局がデータをDVDに落とし、各事業所に配布することについて周知した。
2月4日	ふれあい福祉センター	19	・今年度の振り返りをし、次年度の活動等について協議した。 ・次年度の役員を選出した。

### その他の活動

6月21日	戸倉創造館 大ホール	48	・地域連絡会と共催で、権利擁護研修を開催。 ・テーマ「権利擁護と行動障害について」 講師：社会福祉法人高水福祉会 理事長 野口直樹氏
-------	---------------	----	--

### 3. 総括

多くの事業所の職員にこの部会に参加してもらうという、今年度の目標はある程度達成することができた。

今年度は『自閉症と行動障害』をテーマに、シリーズ化した研修会を通じて、自閉症の障害特性や、本人を取り巻く環境により生じる強度行動障害（二次障害）が予防できることを学んだ。研修会で支援を組み立てるプロセスを基礎から学び、演習をしたことで支援の現場に活かせるようになった。また、第4回部会にてグループワークを行ない、研修に参加した事業所から成果や課題についての発表や話し合いの場を持ち、情報の共有が行なえたことも研修会後の振り返り・フォローとして活動実績となった。

### 4. 次年度に向けて

研修会『自閉症と行動障害』の振り返りにて、多くの参加者より、研修会で学んだことを法人に持ち帰り職員に周知・共有したり、支援等を統一する大変さについて意見が寄せられた。研修で学んだことが本年度以降も活かせるよう、事業所内や関係機関との情報共有や意思統一の方法、個別支援計画を活かした支援の統一方法について次年度の研修会案として前向きに検討していく。

また、利用者の高齢化に悩む事業所が多いため、介護分野との情報交換等の機会も可能であれば検討していく。